

4 新規薬剤によるイネツトムシの効率的な防除法

ねらいと成果

イネツトムシはまれに大発生して大きな被害を与えるなど、年次変動が大きいため防除の判断が難しい。防除対策として、これまでカルタップ、ジメチルピビンホスが主に使用されてきたが、最近これらの剤とは作用機作の異なる2薬剤が登録されたので、効果的な施用法を検討した。脱皮促進剤であるテブフェノジド（商品名ロムダンゾル、粉剤）は若齢期に散布すると非常に防除効果が高いが、中齢期に散布すると被害が増加する傾向がみられた。また、有機ケイ素系殺虫剤のシラフルオフエン（商品名Mr.ジョーカー粉剤）は若齢期だけでなく中齢期の散布でも高い防除効果を示した。

内容

1998年に姫路市勝原で、品種「はりまもち」（6月17日移植）で行った。薬剤の散布時期は若齢幼虫の発生盛期である8月1日（若齢期）と、中齢幼虫の発生盛期である8月8日（中齢期）とし、それらの発生は中程度であった（図1）。

使用薬剤はロムダンのゾル剤

Mr.ジョーカー粉剤の3種類であった。ゾル剤は肩掛け式手動噴霧器で10aあたり100ℓを散布した。ロムダン粉剤は10aあたり4kgを、Mr.ジョーカー粉剤は3kgを手回し式散粉器で散布した。散布11日後、1区300株の齢期ごとの幼虫、蛹数、被害ツト数を調査し、幼虫と蛹の合計虫数から防除価を算出した。

若齢期防除ではロムダンのゾル剤、粉剤はともに高い防除価を示し、被害もほとんど認められなかった。Mr.ジョーカー粉剤はロムダン剤と比べて被害が認められたものの、高い防除価を示し、十分に実用的であった（図2）。

中齢期防除ではロムダンのゾル剤、粉剤ともに防除価は高かったが、被害は粉剤施用区で目立った。殺虫効果が現れるまでに時間がかかり、食害が進んだと考えられた。Mr.ジョーカー粉剤は若齢期防除とほぼ同等の高い防除価を示し、被害も同程度で

あったことから、若齢、中齢幼虫に対して速やかに殺虫効果が現れたものと考えられた（図3）。

普及上の注意事項

ロムダンのゾル剤、粉剤は若齢幼虫と最も防除効果が高く、被害を確実に抑えることができる。また、Mr.ジョーカー粉剤の散布適期は若齢～中齢と広く、他薬剤との混合剤として他の重要病害虫の防除適期にあわせた散布が可能である。

田中 尚智（病害虫防除所）

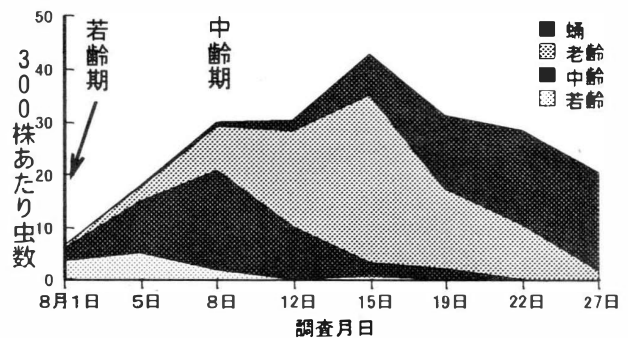


図1 無防除ほ場におけるイネツトムシの発生状況

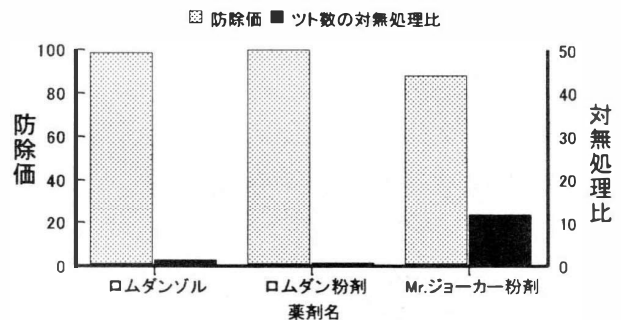


図2 若齢期防除の効果と被害

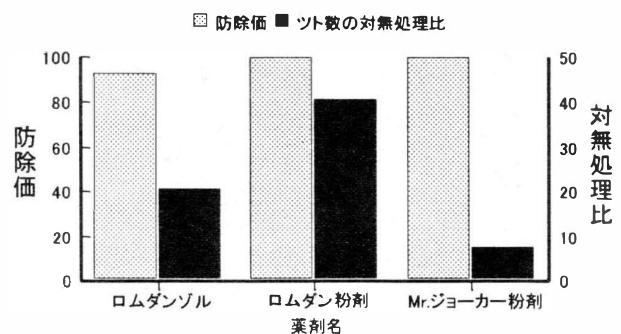


図3 中齢期防除の効果と被害